

## 我が平成の「年賀史」

日記を付けることは三日坊主の繰り返しで、ついぞ習慣にできなかった。  
 その点年賀状は年に1度書けばいい。性<sup>しょう</sup>にあったのだろうか、小学校の4年生の頃から  
 版画やイラストでこつこつ創っていた。それが高じたとは思えないが、美大のデザイン科に  
 進み現在に至っている。流石に小学校時代の年賀状は残していないが、「平成と私」の企画  
 に乗って、平成元年からの31枚を並べてみた。

賀状交流のある同期諸氏には、見覚えのあるハガキを思い出していただけると有り難い。



私の賀状は、年頭の挨拶に始まり、家族の状況、干支・世相に絡めたイラストと文言、自筆のワンポイントコピーで構成する。結構ファンもいて、「毎年楽しみにしてるから…」とか、「健ちゃんのは喪中でもいいから頂戴…」とか、「今までのやつ、取ってあるよ…」とか、制作の励みになる嬉しい声をいただいている。

こうして一覧にすると、日記ならぬ「年記」として、その年その年のいろんなドラマが再現されてくる。 **写真-1**

ご多分に漏れずデザイン業界もパソコンの出現で大きく変わった。それまでの外注工程は、パソコンを操れば、ほぼ自分でこなせるようになる。その兆しは平成8年の賀状に描かれている。 **写真-2**

必要に迫られて覚えざるを得なかったが、「大学で学んだ技術は何だったんだ…！」とブツブツ言いながら、団塊世代には酷な“PC手習い”が始まる。絵筆が電子鼠に代わり文字は電子板で打つ。デザインワークは電子用紙上に…と一変した。

年賀状の方も、我が家にパソコンが入った平成12年のものから自宅プリンターで出力するようになった。表現の幅が広がる。印刷納期も色数も気にしなくていい。何とまあ、便利極まりない道具ができたものか。

31枚の中には、同一フォーマットの4枚の喪中ハガキも含まれている。お互いの両親のものである。平成の時代、同じ経験をした同期諸氏も多いことだろう…

「年記」は、新しい元号「令和」へと紡いでゆく。  
(2019年4月記)

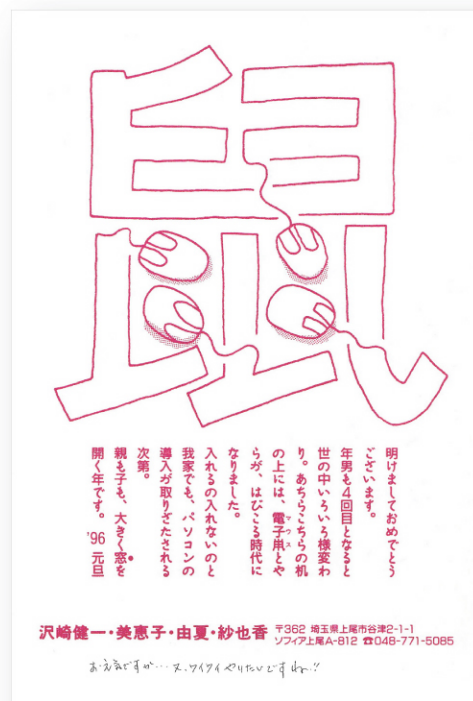


写真-2